

コメント

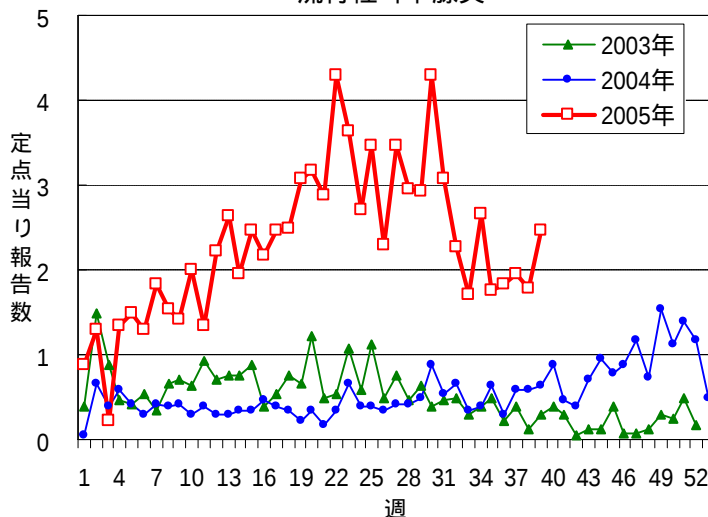
1. 流行性耳下腺炎

定点当り2.46人とやや増加しています。安芸区4.5人、中区3.7人、東区2.7人となっています。

2. 流行性角結膜炎

定点当り2.88人とやや減少しています。全患者数23人のうち、安佐南区、安佐北区からの報告がともに9人と多くなっています。

流行性耳下腺炎



5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均 過去5年間 (注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均 過去5年間 (注1)	発生記号
インフルエンザ (注2)	-	-	-		麻疹(注3)	-	-	0.03	
咽頭結膜熱	1	0.04	0.09		流行性耳下腺炎	59	2.46	0.65	↗
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	19	0.79	0.60		RSウイルス 感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	81	3.38	2.62	↗	急性出血性 結膜炎	-	-	0.03	
水痘	11	0.46	0.68		流行性角結膜炎	23	2.88	0.90	↘
手足口病	3	0.13	0.60		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	1	0.04	0.09		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.29	
突発性麻疹	16	0.67	0.94		マイコプラズマ 肺炎	4	0.57	0.31	
百日咳	3	0.13	0.03		クラミジア肺炎 (注4)	-	-	-	
風疹	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	12	0.50	0.25						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね 1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね 1.1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね 1.1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1) 過去5年間の同時期平均 (定点当り)
(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く
(注3) 成人麻疹を除く
(注4) オウム病を除く

1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

報告はありません。

5類感染症報告状況の推移（定点把握対象分）

			A群溶血性レンサ球菌咽頭炎																				急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎(注3)		成人麻疹	
			インフルエンザ(注1)		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳		風しん		ヘルパンギーナ		麻しん(注2)		流行性耳下腺炎		RSウイルス感染症		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎(注3)		成人麻疹	
報告数	広島市	第35週	-	8	11	104	12	17	-	23	3	2	21	-	42	-	-	4	1	3	5	-	-													
		第36週	-	11	15	100	11	10	2	18	1	-	17	-	44	1	1	31	-	2	2	-	-													
		第37週	-	6	11	85	12	6	1	20	1	-	21	-	47	1	-	29	-	3	3	-	-													
		第38週	-	5	15	74	12	1	3	16	2	-	15	-	43	-	-	27	-	-	-	-	-													
		第39週	-	1	19	81	11	3	1	16	3	-	12	-	59	-	-	23	-	1	4	-	-													
定点当り	広島市	第35週	-	0.33	0.46	4.33	0.50	0.71	-	0.96	0.13	0.08	0.88	-	1.75	-	-	0.50	0.14	0.43	0.71	-	-													
		第36週	-	0.46	0.63	4.17	0.46	0.42	0.08	0.75	0.04	-	0.71	-	1.83	0.04	0.13	3.88	-	0.29	0.29	-	-													
		第37週	-	0.25	0.46	3.54	0.50	0.25	0.04	0.83	0.04	-	0.88	-	1.96	0.04	-	3.63	-	0.43	0.43	-	-													
		第38週	-	0.21	0.63	3.08	0.50	0.04	0.13	0.67	0.08	-	0.63	-	1.79	-	-	3.38	-	-	-	-	-													
		第39週	-	0.04	0.79	3.38	0.46	0.13	0.04	0.67	0.13	-	0.50	-	2.46	-	-	2.88	-	0.14	0.57	-	-													
	全国	第37週	0.04	0.35	0.52	2.38	0.42	0.72	0.17	0.82	0.01	0.01	0.74	-	1.12	0.01	1.31	0.01	0.05	0.24	0.02	-														
		第38週	0.02	0.24	0.46	2.10	0.45	0.59	0.11	0.68	0.01	-	0.57	-	0.98	0.01	1.09	0.01	0.03	0.22	0.01	-														

(注1)高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
流行性耳下腺炎	4	男	2005/07/30	髄液	ムンプスウイルス
流行性耳下腺炎	5	男	2005/08/17	髄液	ムンプスウイルス
無菌性髄膜炎	7	男	2005/08/13	髄液	ムンプスウイルス
不明熱	0	女	2005/08/07	糞便	エコーウイルス6型

国内におけるウエストナイル熱患者の発生について

国内では、これまでウエストナイル熱患者は報告されていませんでしたが、2005年10月に国内で初めての患者が確認されました。この患者は、アメリカ滞在時に感染した可能性が高いと考えられています。

ウエストナイル熱はウエストナイルウイルスを持った蚊に刺されることによって感染する病気です。ウエストナイルウイルスは、鳥の体内で増殖し、感染した鳥を刺した蚊が人を刺すことによって人に感染します。

現在、ウエストナイルウイルスは、アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、西アジア、北米など広い地域に分布しています。

北米では、例年夏休みの時期から流行が始まり、9月ごろにピークを迎えますが、年内は流行が続きます。現在アメリカでは、特にカリフォルニア州で患者が多くなっており、今回の患者も滞在先のロサンゼルスで感染したものと考えられています。

これから北米へ渡航される方は、蚊に刺されないよう注意してください。（長袖・長ズボンの着用、虫除けスプレーの使用など）

なお、ウエストナイル熱は、人から人へ感染することはない、患者を刺した蚊に刺されて感染することもないので、患者から感染が拡大することはありません。

本週報は、インターネットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

なお、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2005年第39週 (9月26日～10月2日)